



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 日本高純度化学株式会社

5

2003年秋、日本高純度化学株式会社の渡辺雅夫社長は、今後の会社の資本政策に積極的に取り組むたいと考えていた。日本高純度化学は、1999年に渡辺社長達経営陣がそれまでのオーナーであった芹澤精一氏から株式を買い取ったMBO（マネジメント・バイアウト）の会社であった。2002年11月、渡辺社長は、その日本高純度化学株式会社の株式を、MBO会社としては日本で初めて公開していた。しかし、日本高純度化学株式会社の大株主は、MBOファンドであり、長期的に株主としてとどまってもらうことは期待できないと思われた。

10

## 会社概要

15

日本高純度化学株式会社は、芹澤精一氏が、1971年7月に貴金属めっき用薬品の開発、製造及び販売を目的として、資本金10百万円で東京都豊島区池袋のビルの一部屋に設立した会社であった。芹澤氏は、東京理科大学を卒業した後、大手貴金属メーカーの田中貴金属に技術者として勤めていたが、そこで培ったノウハウを金めっき分野で生かすために一人で会社を立ち上げていた。

20

しかし、芹澤氏が金めっき用薬品事業を始めた当時は、貴金属めっき用薬品の分野はアメリカの技術が主流で純国産の技術はなかった。<sup>[1]</sup> このため、外資系企業が市場を押さえており、後発企業が入り込む余地は殆どなかった。金めっきが施されるのは部品の接合部分であり、信頼性が要求されており、「新参者」の製品を採用するユーザーは少なかった。しかも、原料の金に対し

25

<sup>[1]</sup> テレビ東京、貴金属メッキの世界ナンバーワン企業、日本高純度化学（2003年6月29日放送）

本ケースは、慶應義塾大学名誉教授 鈴木貞彦が、公表資料に基づいて作成したものである。本ケースは、経営の巧拙を例示することを目的としたものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 鈴木貞彦（2003年10月作成、2007年2月改訂）